

コストと環境両立

再生骨材
を使用 自然石景観舗装材料

前田道路は、再生骨材を使った自然石景観舗装材料「『ペブルコートR』・再生自然石アスファルト舗装（天然砂利）」を開発し、茨城県土浦市内の市道で施工した。

材料に再生骨材を50%使い、従来の自然石景観舗装よりも1ト当たりの材料費を抑えた。ミキサーの掃除を必要としない黒色のアスファルトを利用するため、材料の切り替えを最小限にでき、洗い出し工を含めたトータルコストは、従来の自然石景観舗装に比べて44・5%低減する。合

材製造時のCO₂排出量は38・2%削減し、低コスト化と環境への配慮の両立を実現できる。

従来、自然石景観舗装材料は、半透明な脱色アスファルト



土浦市内の施工箇所の様子

また、脱色アスファルトを使うために、専用のローリー車を使う必要があり、製造時の手間が増えるだけな

トと自然石を加熱混合して製造していた。黒色のアスファルト混合物を製造するプラントで、ミキサーに残った黒色の骨材を排出する作業である。捨てる「バッチ」が必要となる。

く、材料費が割高なことや、エネルギーロスの発生といった課題が生じていた。ペブルコートRは、粒径が14〜10ミリの自然石に、通常のアスファルト混合物に使用するストレートアスファルト、再生骨材、細骨材を合わせて製造する。自然石の粒径や混合物の粒度、骨材の洗い出し方法の組み合わせを工夫し、景観舗装の明るい風合いを出した。

同社は、茨城県土浦市の市営土浦霊園近くの市道で同製品を施工した。施工面積は200平方メートル、舗装の厚さは5センチ。今後供用後の耐久性を評価しながら、霊園や寺社仏閣といった落ち着いた雰囲気になじむ景観舗装として、全国の工場と営業所に展開する。

